

NEWSLETTER SPECIAL EDITION
H29 グローバル女性人材養成プログラム(ベトナム) 特集

2017年8月17日(木)～30日(水)の2週間、協定校であるハノイ貿易大学(ベトナム)にて「ベトナムの発展とアジアにおける協力」をテーマとした研修が行われ、13名の学生が参加しました。学生の感想を含めて、内容を紹介します。

PROGRAMME

2週間のプログラムでは、ベトナムの文化、歴史、経済を学べる講義を中心に、ハロン湾、ニンビン等のフィールドトリップに加え、料理・陶芸体験などを通してベトナムの伝統文化を学べます。参加学生に人気だったプログラムは、「トランアン・ニンビンの旅」、「ベトナムの伝統的な料理体験」など。その他、「TOTOへの企業見学」について、印象に残っていると記述している学生が多くみられました。

- 講義プログラムはとても易しく、何より日本語で講義していただき理解しやすかった。ベトナムに関する基礎知識をはじめ、ベトナムの経済、産業、抱える諸問題、そしてそれらとどう向き合っていくかなど、日本人学生にも主体的に考えさせる構成で、「他国について考えてみる」「自国以外に興味をもつ」ことの重要性を学んだ。
- TOTO企業の工場を見学したが、ベトナム人は真面目で手先が器用でよく働くと聞いていたので、実際に彼らのそのような姿を見ることができて感心した。最近ベトナム製の商品が多いが、その製造現場を見ることができて、日本とベトナムのつながりを学ぶことができた。
- 女性史博物館がとても印象に残っていて、ベトナムの多様な民族の美しい衣装はもちろん、それぞれが異なる結婚観や女性の役割を持っていることがわかり、日本よりも小さい国でこれだけの多様性があることにとても驚いた。また、戦争の際に多くのベトナム人女性が兵士として戦争に参加していたことを全く知らなかったのが、とても衝撃を受けた。

SCHEDULE

- 8/18 講義「ベトナムの文化と歴史」
- 8/19-20 ハロン湾の旅
- 8/19-20 グアンニン県にある貿易大学のキャンパスの訪問
- 8/21 講義「ベトナムの経済」
- 8/21 シティツアー（女性歴史博物館・水上人形劇）
- 8/22 貿易大学生と交流
- 8/22 企業の見学
- 8/23 講義「ベトナムの伝統的な工芸村」
- 8/23 バト・トラン村の見学
- 8/23 アオザイのレンタル
- 8/24 シティツアー（タンロン遺跡）
- 8/25-26 トランアン・ニンビンの旅
- 8/25-26 ドトラン寺に訪問
- 8/27 ベトナムの伝統的な料理の体験
- 8/28 講義「音楽と演奏の技能」
- 8/28 シティツアー（民俗博物館と文廟）

MOTIVE

海外への渡航経験が初めての学生が多くプログラムに参加しており、自分自身の視野を広げることが目的のために研修にきた学生が多かったです。

- 実際にベトナムに行き、現地の生活や気候、文化などを自分で感じることで学び、社会に出たときに多様な価値観を理解できるようになること。また、人とコミュニケーションをとることが苦手なので、同じ研修に参加している人とだけでなく、外国の人ともコミュニケーションをとることで少しでも克服し、将来に役立てていきたいと思ったため参加した。
- 食べ物に興味があったこととハロン湾に行きたいということもありましたが、ベトナムという国に何故日本の企業が多く進出しているのか、経済が発展しつつあるのかを直に見てみたかった、という考えもありました。
- 日本人だけでなく、外国の人との交流を通して、自分の視野を広げることと、大学で勉強している食について、日本とベトナムの違いを実際に感じるためにベトナム研修に参加しました。

INTERACTION WITH STUDENTS IN VIETNAM

ハノイ貿易大学の学生や他国から貿易大学のプログラムに参加する学生と交流した時間が、研修参加に良い刺激をもたらしたことが伺えます。

- 貿易大学の学生と一緒にベトナムについて学ぶ交流の時間が印象的だった。ベトナム語の挨拶や数字等を教えてもらい、自分でも発音の練習などをしていて母音の発音などがとても難しく、なかなかうまく発音することが出来なかった。練習の時、現地の学生に聞いてもらい、とても丁寧に発音を何度も直してもらったことから、自分が外国語を話すとき、綺麗に発音することはその国の人から聞いて違和感のない話し方をする事なのだ改めて感じた。
- 現地の学生が選んで案内してくれたお店で一緒に食事をしたことです。現地の学生さんがお昼によく食べているというバインミーはとてもおいしかったですし、話も弾んで楽しかったです。ベトナムのことをたくさん教えてくれて、ベトナムの駄菓子も一緒に食べました。また、日本のことをたくさん知りたいという姿勢でたくさん質問してくれました。現地の学生と仲良くなれて、またベトナムに会いに行きたいと思っています。
- キャンプファイアーがとても楽しかった。日本人は恥ずかしがってあまり歌ったり踊ったりしなかったが、ベトナム人やイタリア人は音楽が流れると皆楽しそうに踊り出した。私も一緒に踊ったら、とても楽しかった。踊ってるうちに自然と知らない人と仲良くなったし、キャンプファイアーは一つの交流の機会だった。ベトナム人が英語を上手に話し、色々な人とすぐに仲良くなっているのを見て、とても感心した。
- 現地の日本語学部の学生がほとんどの工程に同行してくれていたため、彼らとたくさんの会話をした。そのなかで、今のベトナムの若い人たちのあいだで流行っていることや、学校生活や、勉強のことなど、講義ではわからないようなことも知ることができた。そういう毎日の会話が印象に残っている。

DISCOVERY IN VIETNAM

2週間ハノイに滞在したことで、ベトナムの人々、料理、習慣など色々な発見がありました。これらを肌で感じたことが、学生達の研修で得た一番の成果だといえます。学生達がベトナムで発見したこと、感じたことを紹介します。



ベトナム人

私がベトナムで感じたことは、ベトナム人の謙虚さと勤勉さ、優しさです。研修先の貿易大学の学生たちはみなとても勉強熱心で、常に日本のことをもっと知りたい、もっと日本語を話せるようになりたいという情熱があって、たくさん質問をしていました。学生たちだけでなく、ベトナム経済の講義のなかでは、先生も日本人から見たベトナムはどのようなものか、どうしたらベトナムをよくしていくことができるとおもうか、という質問をしていて、他国の視点から見た改善点を受け入れようとする姿勢はとても謙虚で、私もベトナム人を見習って、謙虚になりたいと思いました。自分自身もはっきり自覚はしていませんでしたが、ベトナムでの研修に参加するまでは、発展途上国であり治安の悪いイメージがあったベトナムに対して見下すような考えを持っていたように思います。でもその考えは研修に参加して全くなくなり、今はベトナム人を尊敬しています。



驚いたことは飲食店の座席が歩道に出ていることで、そのために歩道が通れなくなっていて、車道を通っていくということになり、新鮮な経験だった。また、道路の車両の多さにも驚いた。ベトナムはバイクが多いということをよく聞いていたが、実際にバスのなかから通学途中に車両で身動きが取れない状態になっているのを見たり、近距離でも混雑時には何分もかかるという話を聞いたりして、思っていた以上に車両が多いことに気づいた。発見は、ハノイにある家は細長い形のものが多く、色は日本のものよりカラフルで、デザインはヨーロッパを思わせるものをよく見かけるということだった。



街の様子

ベトナムの建物は日本のものとはかなり雰囲気違って、観察をするととても楽しかった。また、日本にはない自由な雰囲気を様々な面で感じた。どこの店でもお客さんが来ていないときに店の方がスマートフォンを使っていたり、道路で眠っている人がいたりとか何かに縛られずにおおらかに生活するという心の持ちようを感じた。



交通については、圧倒的なバイクの多さに驚いた。道路を横断するのも一苦労だった。日本とは全く違う風景で、大学の中にも学生のバイクがたくさんとめてあったのが新鮮だった。あまりにも多い交通量のおかげで、ハノイの空気は排気がスで汚れていた。家屋は、日本よりも縦に長いものが多く、建物と建物の間がほとんどないような形でぎっしり建てられていた。



食事

自分が想像するよりずっとベトナム料理は、地域の食材や気候、文化によって多岐にわたり、何を口にしても新鮮で楽しかったことがとても印象に残っている。一口に麺料理といっても一般的に知名度の高いフォーだけでなく、魚介の出汁、野菜の出汁、牛肉、鶏肉の出汁、平麺、細麺、太麺など組み合わせの可能性が無限大にあることとても感銘を受けた。また何より特徴的なのは、ベトナムの料理屋には卓上にライムやナンプラー、塩、にんにく、唐辛子など自分で味をカスタマイズできるようになっており、外食が多いベトナム人も外食先で故郷の味に近づけることができるようになってきているのかと思うと感慨深いものがあった。



ハノイ周辺には民家もたくさんあったので、ベトナムの人々の日常を見ることができた。食生活については、ベトナムの女性は働きに出ている人が多いようなので、日本よりも断然外食率が高かった。食べものは、辛みがきいていたり、パクチーやミントなどの薬味が添えてあったりと、すこしくせのある味が好まれているという印象だった。でも、日本人の口にも合う食べ物が多いと思った。フランスパンなど、フランスの植民地時代のなごりが残った食べ物も発達しており、また、日本では食べられていない鯉や虫なども調理されていた。

FUTURE

今回の研修で、海外経験を得て視野が広がり、これからの学業、就職活動等に良い影響を与えたようです。

- **学**業では、現地の学生やほかの大学生が英語でほかの国の方とコミュニケーションをとっていたことから自分も話せるようになりたいと思い、語学の学習へのモチベーションが上がった。また日本企業を訪問して、現地の方々の日本企業での働き方や製品の海外支店からの輸出などの現場を実際に見学し、日本とアジアの関係を学ぶことができたため、海外という視点から日本が見られるようになった。
- **ベトナム**研修に参加して、今まで想像もしていなかったようなベトナム人の生活を知って、日本国内のこじか知らなかったときに比べると様々なことへの想像力が働くようになったと思う。今後の学業や就職活動のなかでは、問題解決に取り組むとき、自分自身の常識にとらわれすぎず、別の視点から見るとどうかということを考えて、より具体的な解決方法を考えだせるようになるのではないかと思います。
- **今**までは、理系だしとあえず専攻の勉強をしていこう、としか考えていなかったのが英語の勉強がおろそかになっていた。また、3年生になってからは英語の授業も化学英語という論文を読むための講義しかとってなかったのが英語からどんどん離れていっていたが、今回の研修を機に英語にもっと力を入れて取り組みたいと思った。いろいろな場面で英語が話せたらもっと有意義に過ごせるのではないかと考えるようになった。
- **今**回の研修では、ベトナムの学生をよく観察し、彼らの良いところをたくさん見つけることができた。まず、彼らは勉強熱心で、将来についてもしっかりとした目標を持っている。次に、彼らは周りをよく見て、素早く動くことができる。そして、自分から積極的にコミュニケーションをとり、誰とでも仲良くできる。これらは大いに見習いたい点であり、今後の私の学業や行動に大きな影響を与えるだろう。



WHAT THEY GAINED

研修を通して出会った人や出来事から学び、コミュニケーション能力が身についたと答える学生が多かったです。

- **自**分から積極的に行動をとるようになった。ベトナムの学生が皆積極的に行動し、自ら楽しもうとしている様子を見て、私も真似してみようと思った。授業も受け身だとあまり楽しくないが、積極的発言をすることでとても楽しくなった。
- **以**前よりも積極的にコミュニケーションをとる能力がついたと感じている。ベトナム現地の学生とも、つたないけれども自分の英語能力で意見を伝えようとしたり、現地の人とも買い物をするときには分からないことを質問したりと常に自分から相手に働きかける能力を身につけることができたと思う。
- **何**かを得ようとする能力。先延ばしにせず今この時にすると決断する力が身についた。

奈良女子大学 国際交流センター

NEWSLETTER 特別号 2018年1月発行

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL: 0742-20-3736

Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp

<http://www.nara-wu.ac.jp/iec/center/ja/index.html>